

少子化対策特別委員会報告

閉会中の委員会調査

平成21年4月20日
1 文教施設整備検討会の進捗状況について

説明を求め、委員長(佐久間副町長)より、小学校の整備統合と中学校の建て替え、保育園の整備廃合方針、事業に伴う財政計画、の素案の作成を6月末を目途にまとめて、議会に諮った後に町民説明会を予定したい。

アンケートについて

集計資料を基に説明を受けた。小学校の統合についてやむを得ない、段階的にを含め約7割の方が賛成を示しているが、遠距離通学や安全確保の観点での意見が多い

長期財政計画について

見込み表に基づき説明を受けた。

耐震調査について

学校関係で耐震補強工事に必要とされる概算経費は2億8000万円となるが、関連する検討結果を踏まえ早期に説明に入りたい。保育園施設については、今後の方向を見定めて対応したい

との説明があった。

2 視察研修について

委員会としては、文教施設整備検討会の視察計画に併せ参加することとし、必要に応じて別途に計画をすることとした。

視察研修報告

今回の視察は文教施設整備検討会の計画により、中学校の建て替えに併せた保育園からの環境整備の素案作成を視野に、先進地とされる小中一貫教育校と統合保育園についての調査、研究を目的とした視察研修に参加しました。

1、視察研修の日時、研修先

平成21年5月20日(水)

神奈川県川崎市 はるひ野

小中学校 小中連携教育

「小学校、中学校9年間を通じて人間形成を実現することを基本理念」とし、4

3 2の節に分け前期4

年間は小学校の学級担任制を維持し、中期3年間は中1ギャップ解消のための学級

担任制と教科担任制を併用、後期2年間は教科教室移動性を活用し、指導要領に準拠した9年間の完結を目指した実践指導をしている。

平成21年5月21日(木)

東京都品川区 日野学園

特区による小中一貫教育

品川区は教育特区の認定を受け、4

3 2の節に分け小中一貫教育要領を整備し、「社会の二員として必要な教養、自らの人生観を構築する基礎の定着や均一性、

「平等性重視の教育から、個々の個性、能力を伸ばす柔軟な教育への転換」、等を基本理念とし、副教科書の作成や「市民科」を構築し、経済体験学習や将来設計学習を組み入れるなど実践指導をしている。

「英語科」は小学校1年生より組むなど、区独自でも教員採用を行っている。

平成21年5月29日(金)

富山県富山市 市立芝園小

中学校 小中一貫的連携教育

都市中心部のドーナツ現象の進行により周辺4校の小中学校が統合し、建設場所を中学校校舎の敷地に決定したことから、新校舎を小中学校一体型校舎として平成20年に新設した。

富山県朝日町 町立いちご保育園 統合後の新設保育園

いちご保育園は19年懇話会より子育て支援のあり方

についての提案があり、併せて統合でない新しい施設建設の提案がされ、3つの園が廃

止され21年に新設保育園として開設された。平成12年には、地区1箇所12園あったものが統廃合を繰り返し、現在は5保育園を開園している。

送迎バスは停留所の安全が確保出来ないことや、登園時間が決まっていないことから自己送迎で対応している。

また、入所は区割りをとっているが、利用者の選択制を残している。

「バスに合わせて、朝7時〜夜9時まで延長保育を実施している。

小学校と隣接させ、周辺との調和・一体感がある。

平成21年5月29日(金)

富山県富山市 市立芝園小

中学校 小中一貫的連携教育

都市中心部のドーナツ現象の進行により周辺4校の小中学校が統合し、建設場所を中学校校舎の敷地に決定したことから、新校舎を小中学校一体型校舎として平成20年に新設した。

富山県朝日町 町立いちご保育園 統合後の新設保育園

いちご保育園は19年懇話会より子育て支援のあり方

についての提案があり、併せて統合でない新しい施設建設の提案がされ、3つの園が廃

止され21年に新設保育園として開設された。平成12年には、地区1箇所12園あったものが統廃合を繰り返し、現在は5保育園を開園している。

送迎バスは停留所の安全が確保出来ないことや、登園時間が決まっていないことから自己送迎で対応している。

また、入所は区割りをとっているが、利用者の選択制を残している。

成長段階にあった要領を整備し実践指導をしていることや、運動会、学習発表会、文化祭、入学式などの学校行事を合同で行っており、異学年交流施設(図書室と学習スペース、ランチルーム、音楽ステージ等)や、地域に開かれた地域交流施設が工夫されている。学校は「いずれも、PFI事業で建設、運営されている。

感想として
視察先は、いずれも社会環境の変化や少子化に伴う教育環境が大きく変わることに、学校改革の動機づけや、きょうかけづくりに必要な条件が整っていたとの思いがある。湯沢中学校が開校した50年前には1学年の生徒数が250人を数えたが、現在は3分の1から4分の1に近い生徒数となっている。

中学校の建て替えに併せて、将来の教育環境の整備を能動的に捉えるのか否かは、今後の学校教育全般に渡り、その係わり方に大きく影響を与えることが考えられる

ことから、教育行政のあり方とともに町民を含めた議論が急がれている。